飯能市立博物館

身近なのに不思議な植物 タケ

飯能市立博物館 学芸職員 岸 裕介

春、暖かくなってきて竹林の足元からムクムクと頭を出すものといえば、タケノコですね。タケノコごはんにタケノコの刺身、タケノコのホイル焼きと、旬の味覚を待ちわびていた方も多いのではないでしょうか。

天覧山周辺の竹林(モウソウチク)

収蔵品展に展示されている見台の竹文様

タケノコは地面から顔を出すと成長が速いときは 1 日に 1 メートル以上も伸びて、どんどん高くなり、60 日ほどで立派なタケに成長します。タケの子どもだからタケノコ。では、そもそもタケってどんな植物なのでしょうか。

タケはイネ科タケ亜科の植物で、分類上はイネの仲間です。組織が大きく固くなって何年も生きることから木のようでもあり、成長が短期間で終わり、花が咲くと枯れてしまうことから草のようでもある、木とも草とも言い難い独特な植物です。

タケの茎の部分は「稈(かん)」といいます。稈には「節(ふし)」があり、節と節の間は空洞です。普通の樹木は茎の先端の成長点のみで伸びているのですが、タケは節ごとに成長帯という細胞分裂をして大きくなる部分があるため、1 節ごとの成長はわずかでも、全体としてはきわめて速く大きくなることができます。一方で普通の樹木のような形成層がないので、稈は太くなりません。稈の構造はタケノコのときには出来上がっているので、タケノコの節と成長したタケの節は同じ数になります。タケノコはタケの皮に包まれていて、1 枚の節に 1 枚ずつ皮がついています。タケノコを掘り出したら皮が何枚あるか、ぜひ数えてみてください。ちなみに、成長が終わると皮が自然と剥がれ落ちるものがタケ、皮が付いたまま落ちないものがササと区別されています。

天覧山・多峯主山周辺では、植栽されたモウソウチクやマダケをみることができます。

また、ササ類ではアズマザサやアズマネザサ、そして牧野富太郎命名のハンノウザサが生育しています。ハンノウザサは分類学上アズマザサと同じ種ですが、天覧山裏の見返り坂のものは県の天然記念物に指定され「見返坂の飯能ササ」として保護されています。

かつてタケは人間のくらしになくてはならない植物でした。食用利用だけでなく、笊(ざる)や籠（かご)、水筒、傘など生活の様々な道具の材料や家の建材として使われていました。また、冬でも青々としたタケの姿や、タケノコの驚異的な成長力はおめでたいものとして尊ばれ、古来より文様にも取り入れられてきました。当館開催の収蔵品展で、おめでたい「竹(タケ)」の文様を探してみてください。

【参考文献】

日本タケ科植物図鑑 鈴木 貞雄 平成 8(1996)年 1 月
地域資源に活かす 生活工芸双書 竹 内村 悦三ほか 平成 31(2019)年 1 月
タケの大研究 内村 悦三 令和元(2019)年 5 月
たけのこ なんの こ？ 野中 重之(監) 令和 3(2021)年 3 月